

バロー

売上高、3年後6000億円目標

中期計画 一部店舗、業態転換

バローホールディングスは10日、2021年3月期の連結営業収益を18年3月期比10・3%増の6000億円とする3年間の中期経営計画を発表した。店舗の改装や業態転換などで既存店の商品力を強化し、店舗収益の改善を図る。設備投資は年間230〜240億円のうち、30〜40%を既存店に充てる。

スーパーマーケット事業は、従来型店舗からの転換は年間30〜40店舗で改装や新設店の大型化などを図る。ドラッグストアやホームセンターを含め、効果が見込めない不採算店舗は閉鎖やグループ内での業態転換を図る。

好調なドラッグストア事業は、食品や総菜の売り場

の導入を進め、さらなる利便性向上に取り組む。スポーツクラブ事業は、低料金で人気の「アクトスウィーグ(ウィルジ)」の新店を加速。フランチャイズを展開を含めて3年間で200店舗以上増やし、次の主力事業の柱として見込む。田代正美会長兼社長は「スーパーマーケットをフイットネスやドラッグストアに切り替えるなどグループの壁を取り除き、新しいグループ経営を始めたい」と強調。21年3月期の連結経常利益は24・2%増の185億円を目指す。